

令和6年度全国学力・学習状況調査より

校内全体研修会(各教科:今後の取組の方向性の考察)

今年度の全国学力・学習状況調査は4月18日(木)に、中学校3年生を対象に、「国語」と「数学」の学力調査と生活習慣や学習習慣等に関する「質問紙調査」が実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の結果や分析を踏まえた改善点についてまとめましたので、その概要をお知らせします。

1 分析の概要 ○…良かった項目について ●…課題のあった項目について

【国語科】

○良かった項目について

(4一・3三)

表現技法の種類を選択する設問と漢字を問う設問。言語事項に関する知識については、全国平均との差は小さく、ある程度力がついている。

(2二)

具体と抽象の関係性を問う設問。これも知識を問う設問であり、上記と同じく、ある程度力がついていると考えられる。

●課題のあった項目について

(1四)

読み取った内容をもとに、2つの条件に従って自分の考えを記述する問の正答率が全国と比較して最も悪かった。読解力と記述力の双方が必要な、高い国語力が求められた設問であった。誤解答を詳しく見ると、「フィルターバルブ現象の特徴を取り上げながら、これからどのように本を選びたいか具体的に書きなさい」という条件の誤答が多い。内容の読み取りができないために書くことができない状態であることが考えられる。

(2一)

本文中の図の役割について読み取る力を問う設問。回答を導くために必要な情報を、文章中から抜き出せていない。読解力に課題がある。

(3四)

この設問も2つの条件に従って文章を書く力を求められた。誤解答の詳細を見ると、無回答率は全国平均を下回っており、書こうとする意欲は見られる。ただし、2つ条件の両方を満たしていない誤答率がかかなり高い。内容を読み取り、その話の流れに続くように「表現を工夫して文章を続ける」という条件をクリアできなかった生徒が多かった。(1四)の設問と同じく、内容の読み取りに課題があると考えられる。以上から、「知識」に関しては、全国平均と同等の力を身に付けられていることが分かった。一方、文章を読み取ることに關して、最も課題があることが分かった。

<今後の取り組みの方向性>

- ・読解の授業は一斉授業で行うことが多い。その場合、読み取りができる生徒だけが挙手し、苦手な子は発表された内容を聞くのみで終わってしまうことがよくある。そこで、「ロイロノート」を有効活用していく。読解の授業において、「問い直し」の発問を師し、「ロイロノート」に各個人が解答を提出する活動を繰り返す。一斉授業とは異なり、全員が自分の考えを示し、他者の答えと比較しながら、自らの読解を問い直すことで、読解力をつけさせていく。
- ・読解力向上には、語彙力の向上が欠かせない。語彙力を向上させるには「読書」が最適だ。読書推進の取組をさらに進めていきたい。

※ロイロノート…生徒からの発信を助け、共有、蓄積して、学び合うための教育 ICT ツールのこと。

【数学科】

○良かった項目について

・等式を必要に応じて変形し、ある文字について解くことや、一次関数のグラフの特徴や、同様に確からしい事象を区別して簡単な場合の確率を求めることについては、教科書やワーク等で繰り返し演習ができていたため、知識・技能の定着が図れていた。

●課題のあった項目・無回答が多かった項目について

・記述式で答えなければならない問題は、正答率が低く、無回答が多い。要因として、問題自体を理解できていないことや、見通しを立て自分の考えを説明する力が身につけていないことが考えられる。授業における数学的活動を通して、思考力・判断力・表現力を身につけることができるようにしたい。

<今後の取り組みの方向性>

・数と式では、文字を用いた式を具体的な場面で活用し、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが課題である。数量や数量の関係を簡潔、明瞭で一般的に表すことが大切であるので、文字を用いて表したとき、「なぜその式で表すことができるのか」を説明する活動を行っていききたい。

・図形では、筋道を立てて考え、証明することが課題である。結論に至る流れの中でも根拠を明確にすることが大切であるので、根拠とともに自分の考えを相手に伝える活動を行っていききたい。

・関数では、一次関数のグラフから数量の関係を読み取り、事象に即して解釈することが課題である。具体的な事象を一次関数とみなすことで、結果を推測することが大切であるので、それぞれの事象における変化の割合、傾き、切片の意味を理解し、説明する場の充実を図っていく。

・データの活用では、複数の集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが課題である。着目した範囲のデータが全体の何パーセントを占めているのかを確認したうえで、批判的に考察することが大切であるので、授業においてグループで話し合う活動の充実を図っていく。

【生徒質問紙】 ※数値は肯定的な回答の割合

○良かった項目について

・「自分には、よいところがあると思いますか(全国 83.3%⇒本校 84.3%)」「学校に行くのが楽しいと思いますか(全国 83.8%⇒本校 87.6%)」の質問については、めざす学校像として「生徒も職員も、登校することを楽しみに思える学校づくり」を継続してきた成果だと考える。これからも生徒たちへの「肯定的なかかわり」を大切にしていく。

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(全国 90.4%⇒本校 94.7%)」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか(全国 67.5%⇒本校 75.8%)」の質問に関しては、教職員が生徒に寄り添い、生徒の声に耳を傾けることで、生徒たちが何でも話せる環境が整ってきたからだと推測する。引き続き、多くの目で生徒を見守り、生徒理解を心掛けたサポート体制の充実に努めていく。

・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(全国 76.1%⇒本校 83.0%)」については、全国平均を7%近く上回った。今後も「教科学習」と「ふるさと教育」の連動に努めていく。

《豊岡市独自調査項目》

・「学校の授業以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をする」と回答した生徒が過去最高値(29.4%)であった。昨年度から取り組んでいる読書活動推進(各学年フロアに図書貸出しワゴンの設置、ビブリオトークの実施、校長文庫等)の成果であると考えられる。引き続き、生徒が本を探しやすい、興味を持ちやすい環境づくりを充実させていく。

●課題のあった項目について

- ・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピュータ・携帯型・スマホを使ったゲームも含む)をしている(全国 48.9%⇒本校 56.2%)」「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、携帯やスマートフォンで SNS や動画視聴をしている(全国 55.9%⇒本校 66.0%)」「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上家庭学習(塾を含む)をしている(全国 64.3%⇒本校 60.2%)」「休日(日曜日・祝日)、1日当たり1時間以上家庭学習(塾を含む)をしている(全国 63.0%⇒本校 59.5%)」これらの調査結果から、平日、休日ともに「家庭学習」の時間が全国平均よりも少なく、「ゲーム」や「SNS や動画視聴」に時間を費やしていることがわかった。
- ・「スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている(全国 72.2%⇒本校 68.0%)」の質問については、スマホ使用の約束を守っていない生徒が3割以上あり、2割の生徒は「約束がない」と回答していた。これらの結果を踏まえ、生徒たちの家庭での過ごし方・時間の使い方等について、手紙(ほけんだより、学校、学級だより等)や懇談会等を通じて保護者にも協力依頼をしていく。

2 これらの分析を受けて各教科今後の取組の考察

【社会】

●課題

- ・読解力、問題文の意味を理解することに課題がある。
- ・知識を身につけ、それらをつなぎ合わせてまとめることが難しい。
- ・思考・判断力をどう育成するか。

<今後の取組の方向性>

- ・ロイロノートを使って意見を書いたり、学習の振り返りを書いて提出したりすることで、生徒一人一人が文章を記述する力を高めていく。他の生徒の記述も共有して文章のつくり方を学習していく。
- ・複数の資料を見比べて読み解く問題を解く。
- ・地図帳を活用し、意欲を高める。

【理科】

●課題

- ・課題の意味や問題文の意味を理解することに課題がある。
- ・条件付きの文章を記述する力が弱い。何が問われているのかを正しく理解し、実験データや日常生活の事象などを根拠にして、論理的に文章を構成することに課題がある。

<今後の取組の方向性>

- ・ロイロノートを活用し、個人の意見を書く機会をとっていく。その際、書き方の指導を細かくしていく。他の生徒の記述も共有して参考にし合うよう指導する。
- ・文章や問題を読んで、その意味を人に説明する活動を行う。読んだことを理解し、自分の言葉で伝え直すことで、自分が本当に理解しているか確認させる。
- ・問題演習を行い、基本事項の確認をしていく。問題を解くことに慣れさせていく。(ロイロノートなども活用)

【英語】

●課題

- ・語彙力が低下している。(書けない 読めない) → 「書くこと」に抵抗がある生徒が多い。
- ・小学校で学習する英語がどこまで理解できているか。(フォニックス発音)
- ・英語を使って表現(自己表現)の力が弱い。→ 練習機会が少ない。

<今後の取組の方向性>

- ・既習事項の反復練習の回数を多く持ち、英文を使って自己表現活動を行う。
- ・既習した英文を使って自己表現活動を行う。
- ・Part ごとにある Speak Talk Write の活用をする。

【音楽科】

《国語科の分析より》

- ・「内容の読み取りに課題がある」という点で音楽科での取り組みをどうするか。
- ・鑑賞や歌唱教材に対する曲の背景と音楽的要素の関りの理解が難しい。
- ・楽曲の内容について、音楽的要素以外の内容の学習に時間を取る。

《数学科の分析より》

- ・「見通しを立てて自分の考えを説明する力がついていない」という点での音楽科の取り組みをどうするか。
- ・器楽分野で各課題に対して練習計画を立てる時間を作る。

【美術】

●課題

- ・基礎技術から応用へどのように結びつけるか。
- ・自分の作品に主題(テーマ)をもって制作することが難しい。
- ・鑑賞の時間で、生徒の考える時間をどのように確保するか。

<今後の取組み>

- ・制作前の主題の設定 ・目標をより細かくし、達成感を味わわせる。
- ・グループワークによる他生徒の取り組みを知る時間を設ける。
- ・鑑賞の時間を通して、生徒の構想や主題を考える時間を設ける。
- ・生徒作品を鑑賞する時間を設ける。

【保健体育】

●課題

- ・自己や他者の課題を見つけ、話し合いなどを通して仲間と協力して課題解決することができる。
- ・技能の習得や課題解決に向け仲間と協力し、できる楽しさや喜びに共感する中でより意欲的に取り組むことが出来るようにする。
- ・目標を細かく明確化させる。
- ・評価を明確化する。

<今後の取り組みの方向性>

- ・目標を細かく明確に示し、課題やその解決へのポイントを生徒自身で考えやすくする。
- ・評価を明確に示し、見通しや達成度を分かりやすくすることで意欲の向上を図る。
- ・今後も視覚的支援(ICT)の活用やグループワーク、ワークシート等を活用し、授業を行う。
→中学3年間の中で課題を見つける力や解決力、技能を伸ばしていく中で、生涯にわたりスポーツに親しむ力を涵養する。

【技術家庭】

●課題

- ・応用力や問題解決能力をつける。
- ・基礎、基本を徹底する。
- ・プログラミング的思考が弱いため、一つの作業に時間がかかり進度が悪い。

<今後の取り組みの方向性>

- ・根拠を考え発表する機会を設定する。
- ・失敗を恐れない習慣をつけ失敗から成功に結び付け、達成感を味わわせる。
- ・情報リテラシーを高め、自分の考えを深める材料を的確に収集する力をつける。
- ・授業と生活との繋がりを持たせる。
- ・個人への声かけと全体への指導を適宜行う。
- ・作品や考えを班やグループで共有しブラッシュアップする機会を設定する。